



## 皮膚病って?

アレルギーや菌感染など  
さまざまな原因で皮膚に異変が起こる病気。

被毛に覆われている猫は、その下にある「皮膚の異常」がわかりにくいものです。  
猫の皮膚トラブルをいち早く発見し、治療してあげることが大切です。

### 主な 症状

- 体をしきりにかく
- 部分的に脱毛する
- 特定の部位をなめる
- 皮膚に赤み、発疹・湿疹、カサブタが見られるなど



### 原因

猫の皮膚病にはさまざまな原因があります。  
いくつか代表的なものをご紹介します。

#### アレルギー

食物、ノミ、ハウスダスト、花粉などのアレルゲンにより、免疫機構が過剰に反応することで発生します。

#### 菌の感染

ひふしじょうきん  
皮膚糸状菌が毛や皮膚で増殖して起こり、通称「猫カビ」とも呼ばれています。

#### ストレス

身体の一部を舐め続け、その場所が脱毛する「心因性脱毛」や、特定の部位をなめ続けて炎症が起こる「舐性皮膚炎」などがあります。

#### 寄生虫

特定の種類のダニに寄生されることで起こる「疥癬」は、非常に強いかゆみを伴います。

### かかりやすい猫の種類

皮膚病の原因によって異なり、菌の感染による「皮膚真菌症」では免疫力が弱い子猫や高齢猫、ペルシャやヒマラヤンといった長毛種で多いと言われています。アレルギーが原因の場合は、個体差によると言われています。いずれにしても、品種・年齢問わず、まめにブラッシング等のお手入れをして、清潔に保つようにしましょう。

### 予防と 治療法

予防には、猫も猫の周りも清潔を保つよう、衛生面に配慮することが大切です。治療は原因によって異なりますが、飲み薬や塗り薬の投与、アレルギー対応の療法食に切り替える、寄生虫の駆除薬を投与する、などが一般的。完治に時間を要するケースもあるので、症状が治まっても自己判断せず、獣医師に相談するようにしましょう。



猫の皮膚は被毛に覆われているため、異変を見逃し、病気が進行してしまうケースも。日頃からブラッシングをすることで、フケの量や皮膚の変化にも気付け、皮膚病の予防にもつながるでしょう。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が  
マイページから定期購読を申込みと

**2号** (2ヶ月分) **無料!!**

